

# Book Express<sup>10</sup>

図書館だより 第十号  
2009年2月27日 発行: 学生図書委員会

昨年より学生図書委員は非常に活発な活動を行っております。

- 学生主体の図書館活動をどのように活性化させていくか
- どのような活動をしていくべきか
- 学生のみならずもっと図書館を活用してもらうにはどうすればよいか

—などについて話し合いを重ね、少しずつではありますが進んできました。この「図書館だより」も学生主体で作成されています。世の中に本は無数にあります。その本の中には自分の人生を変える本もあるでしょう。この「図書館だより」を読んだ人がなにかを感じ、そんな自分の人生を変える本に出会うきっかけになってくれればいいなと思います。

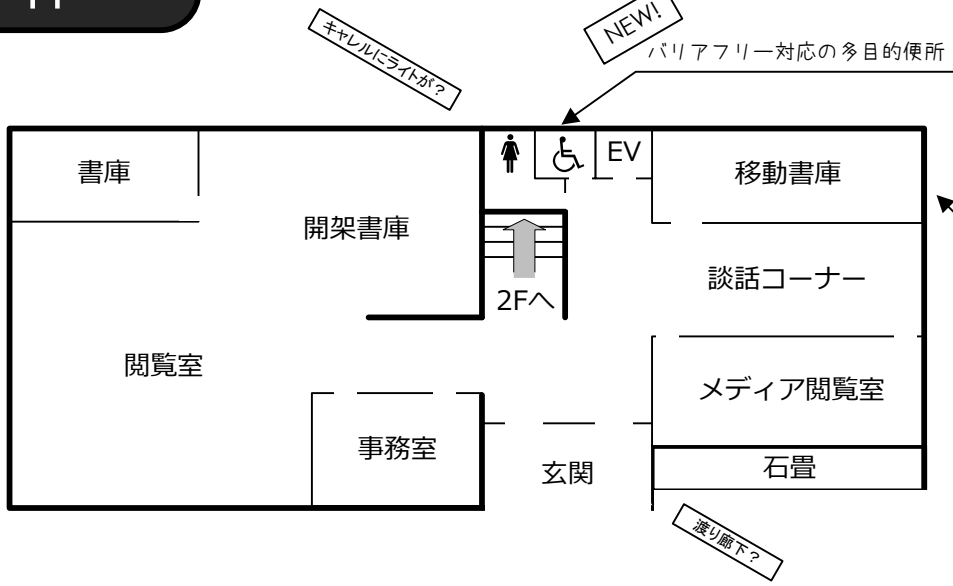
## New Library!!

特集:「新・図書館」ついにオープン!!

昨年の夏より休館して改修工事が施されていた図書館が、今春ついにオープンします! 今回、編集部ではオープンに先立ち、「新・図書館」がどのような所になるのか取材しました。これまでベールに包まれていた「新・図書館」の詳細な情報が明らかになりました!

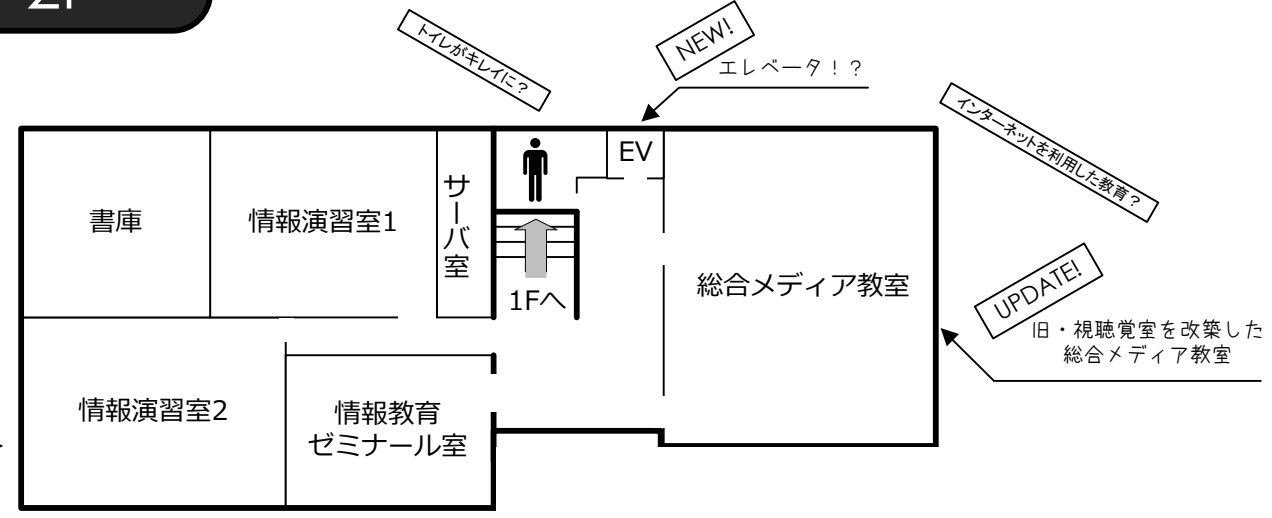
### PICK UP 耐震性&機能性をアップする工事

#### 1F



### PICK UP 校内のメディアが図書館に集結

#### 2F



## Hunting Books

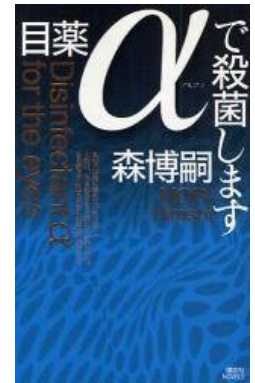
ブックハンティング

2008年11月10日(月)に今年度2回目のブックハンティングが行われました。今回も、明野アクロスタウンの紀伊国屋書店に大勢の図書委員が集まりました。ブックハンティングで購入した本の紹介文を掲載します。これらの本は図書館にすでに入荷済みですので、ぜひ読んでみてください!



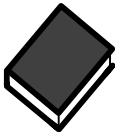
この本のタイトルに驚いた人は多いでしょう。この本は人気作家の赤川次郎さんが書いたミステリーです。  
漫画家を目指す女子高生・岡本聡美は、養成学校の研修「あなたも漫画家になれる!」に参加し、ひと癖もふた癖もある仲間たちと研修先のロッジに向かいます。しかし同じ頃、護送中の凶悪犯が警官を殺して逃亡。嵐によってロッジに閉じ込められた聡美たちに、凶悪犯の魔の手が迫ります。このミステリーは、読者の方々は犯人が解っているタイプのものです。「そいつが犯人だ!」と皆さんはハラハラしながら読み進めることになるでしょう。  
とても面白いのでぜひ読んでみてください。

「あなたも殺人犯になれる!」  
著者: 赤川次郎 出版: 角川書店(2005)



最近「スカイ・クロラ」が押井守監督によってアニメ映画化され話題となりました。その森博嗣さんの著作であるGシリーズの最新刊です。  
話の内容は神戸で劇物の入った目薬が発見されたのを発端に事件が次々に起きてそれを探偵や主人公達が調査するというものです。しかし、シリーズ物なのでこの本だけ読むと色んな「???」が生まれてくると思います。その「???」を解決するためGシリーズを最初から読んでください(笑)  
Gシリーズを全部読むとさらに他作品が気になり気がつけば森さんの著書のすべてを読んでしまっていると思います。  
理系ミステリ好きな方におすすめです。

「目薬αで殺菌します」  
著者: 森博嗣 出版: 講談社(2008)



# My Recommend Books

インタビュー「私の一冊」 - 都市システム工学科 亀野辰三先生

ゲストさんに経験や人生談を語っていただくこのコーナー。今回は、都市システム工学科の亀野辰三先生にお話を伺いました。

## 学生時代

— 学生時代に熱中していたことは何ですか？

「実は昔、僕はとても病弱で、3歳のときに肺結核にかかってね、毎日のように病院に通っていたんだよね。で、激しい運動が全部禁止されて、することが無かったから、本を読むしかなかった。とにかく暇で暇でしかなかったから、本を読み続けてて小学校～高専まで図書館の貸し出し数は常に一位だった(笑)。」

— ではどんな本に熱中していたんですか？

「中学校の頃まではロビンソン漂流記や家族ロビンソンに熱中してた。胸がわくわくおどらされてたよ。高専に入ってから、哲学の本を読み始めたかな。デカルトとかマックスウェーバーとかね。病弱で先が見えなかったこともあってどんどんハマっていったなあ...」



亀野辰三先生

都市システム工学科教授。  
地域連携交流センター副センター長。

## 私の一冊

— 亀野先生おススメの本を教えてください。

「何冊か悩むけど...『青春の蹉跌』<sup>[1]</sup>かなあ。」

— さてつって読むんですね。

「そう。若い時はつまづくことが大事って意味。主人公はね頭はいいんだけど経済的に恵まれなかったんだよ。だけどその主人公を経済的に、精神的に支えてくれた女の人がいたんだ。主人公は出世して社長の娘との縁談を持ちかけられるんだけどそれを受けるとは自分を支えてくれた女性を裏切ることだからね。悩んだ末にそのことを話せずに今まで支えてくれた女性を殺してしまうんだ。」

— 悲しい話ですね...

「そう。でも殺される女性は全てを分かっている主人公の幸せを願って無抵抗で死んで行くんだ。わかる？自分の命をかけて主人公の幸せを願う気持ち。学生の時に読んだんだけど一晩中泣いたね。これは本当に学生にお勧め。」

もう一冊いいかな？『この悲しみの世に』<sup>[2]</sup>って本。クリスチヤンの話なんだけど不治の病にかかりながらもキリストへ愛を捧げ、救いを求める女性の話。過程が波乱万丈でねえ...ハンディキャップがありながらもそれでも雄々しく人生に立ち向かっていく。この悲しい世界にも一筋の光明があるんだって示した本。これも号泣せずにはいられないよ。この2冊かな。本当にこういう本を読むといい本は人生を変えるって実感できるよ。」

## 都市計画との出会い

— 都市計画を研究するようになったきっかけは？

「きっかけはね.....良い先生に巡りあえたことかな。5年生のときだったんだけど、当時はまだ都市計画っていう科目はなかったんですよ。非常勤の佐賀大学の高田先生って方が、集中講義—あ、集中講義っていうのは1週間連続朝から晩まで30時間講義するっていう授業があったんだけど—それがものすごく面白くてね。法学と社会学と経済学が混じったような授業で、力学以外にこんなに面白い分野があるのかと思ったのもあるかな。それで高田先生に本格的に勉強したいって相談したら、大学の経済学部や社会学部が良いだろうと。それから一念発起して慶応大学の経済学部に入学したんだ。」

## 伝えたい言葉

— それでは最後に、学生へ向けてメッセージをお願いします。

「大人になったらね、バランスのいい人が求められるけどね、学生のうちはアンバランスなのが普通なんだ。社会に出て自分と違う意見の人とかとぶつかってだんだんバランスが取れてくるんだ。自分の意見を一方的に言ってちゃダメとかね。だから学生のうちは何か1つのことに熱中していれば十分。熱中できるものを持ちなさい。読書でもスポーツでも何でもいい。」

— 学生の内はがむしゃらでいいってことですかね。

「そうだね。あとできれば本を読む習慣をつけとくといいかな。読書仲間を見つけておくといいかもしれない。あとひとつ。どんな小さな縁でも大切にいなさい。意外なところで幸福が回ってくるから。」

## 亀野先生 ベストセレクション



[1]  
「青春の蹉跌」  
著者：石川達三  
出版：新潮社(1987)



[2]  
「この悲しみの世に」  
著者：曾野綾子  
出版：講談社(1989)



「深い河」  
著者：遠藤周作  
出版：講談社(1996)



自分の利益を最大にする戦略を見つけ出すための数学ツール、それがゲーム理論です。本書では、人間の行動や、経済の動きなどを数値で表す事を目的として作られた、ゲーム理論の歴史や、これからの可能性などを詳しく教えてくれます。  
難しい数式などは一切出てきませんので、文系の人もぜひ読んでみてください。

「もっとも美しい数学 ゲーム理論」  
著者：トム・ジューグフリード 訳：富永星  
出版：文藝春秋(2008)



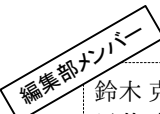
今から約6000年前—まだヨーロッパが森林におおわれていた時代、人間がまだ自然の中で生きていた時代の物語。目の前で父を襲ったクマの姿をした悪霊を止めるために不思議な力を持った少年トラクは「精霊の山」を探す旅に出る。  
ミシェル・ペイヴァーの送る壮大なファンタジー小説「千古の闇」シリーズの第1部。

「オオカミ族の少年」  
著者：ミシェル・ペイヴァー 訳：さくまゆみこ 画：酒井駒子  
出版：評論社(2005)



## Postscript

編集後記



鈴木 克也 (5年 制御情報工学科) 丸山 志保 (4年 制御情報工学科)  
里井 大輝 (3年 制御情報工学科) 梨子木 亮太 (3年 制御情報工学科)

「図書館だより 第十号」編集部メンバーは全員、制御情報工学科生です。これには訳があります。「第九号」より、編集作業にMicrosoft Office Visio 2007を使用しています。このVisioというソフトは、MSDN Academic Allianceに参加している制御情報工学科の学生であれば、誰でも無料で使用できます。そのため、編集部メンバーが制御情報工学科生だけで構成されてしまいました。悪しからずご了承ください。

これからも、図書館、学生図書委員会、そして「図書館だより」をよろしくをお願いします！！

今回も、図書館だより発行にあたって様々な方にご協力いただきました。とりわけ、高橋徹先生（電気電子工学科）、亀野辰三先生（都市システム工学科）には、インタビューや資料提供にご協力いただきました。また、徳尾健司先生（制御情報工学科）には、図書館改装工事中という異常事態に配慮いただき、特別に編集作業の場を提供していただきました。

先生方をはじめ、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございます。